

授業科目	成人看護学概論	単位	1	時間	30	履修時期	H31年度 1年次 1学期
設定理由	成人期にある人の生活と健康に関する基本的知識を基盤とし、多様な健康状態や健康問題に対応するための看護アプローチの基本的考え方や方法を学ぶ						
学習目標	1. 変動する社会状況に対応しながら生活する大人、生涯発達論や他者との相互性、生活と仕事といった概念に基づいて論理的に理解できる 2. 個々人が社会において体験する生活と健康に焦点を合わせ、その人らしくあることができるように看護するための考えや方法論を理解できる 3. 現代社会の要請に伴う医療サービスの質保証や医療システムの変革、看護が担う新たな役割や責務について理解できる 4. 「成人の健康生活を促す看護技術」対象に対して具体的な行為や行動として看護を提供するための看護技術について理解できる 5. 医療技術・システムの発展によりもたらされた「新たな治療法、先端医療と看護」について理解できる。また、療養の場の移行に伴う看護援助として、「退院支援の看護技術」について学び、さらに、国民病であるがんと共生を促し、がんになっても充実した人生を送るための看護を理解できる。						
授業の概要	成人のライフステージにおける身体的・心理社会的特長とライフスタイルがもたらす健康障害を理解する 成人の能力をふまえた健康へのアプローチの方法を理解する						
授業内容（講義ごとの内容）	1. 成人の生活と健康 1) 成人の特徴 2) 成人に特有な健康問題の特徴と予防 2. 成人の特性に応じた基本的アプローチ 1) 成人に特有な健康問題の特徴と予防 2) 健康行動獲得のプロセス 3) 大人の学習 4) 健康教育 5) セルフマネジメント 3. 健康状態の経過に基づく看護 1) 急性期における看護 2) 回復期における看護 3) 慢性期における看護 4) 終末期における看護						担当者(時間)
							非常勤講師(13) 専任教員 (17)
	教員の連携と協力体制						
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1] 成人看護学総論 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[4] 臨床看護総論(医学書院) 国民衛生の動向 (厚生統計出版会)						
参考図書							
オフィス	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など) 実習や出張等で不在の場合がありますが、それ以外は質問・相談を随時受け付けます						
備考							

授業科目	健康の急激な破綻からの回復を促す看護	単位	1	時間	30	履修時期	H31年度 2年次 1学期
設定理由	複雑な様相を呈する成人期の健康問題に対応して看護活動が時期を逸せず実施するための基礎的知識・技術を各健康レベルの代表的な疾患を用いながら習得する						
学習目標	手術を受ける対象の特徴を理解し、手術による侵襲刺激からの回復促進のための看護を学ぶ クリティカルなケアが必要な対象の病態・検査・治療を理解し、生命危機状態における基本的な看護の役割と医療チームの連携、および家族への看護を学ぶ						
授業の概要	手術を受ける対象の特徴を理解し、手術による侵襲刺激からの回復促進のための看護について、急性心筋梗塞、重症心不全、くも膜下出血患者の看護について取り上げる						
授業内容（講義ごとの内容）	1 急激な健康の破綻をきたした人の理解 1) 侵襲刺激に対する生体反応 2) 侵襲期の心理的反応 2 周手術期にある患者の看護 1) 手術療法とは 2) 手術を受ける患者の理解 3) 手術前の看護 4) 手術室における看護の展開 5) 手術後の看護 3 急性発症によって健康が破綻した患者の看護 1) 急性心筋梗塞 2) 重症心不全 3) くも膜下出血					担当者（時間）	
						専任教員（26）  看護師（4）	
						教員の連携と協力体制	
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1] 成人看護学総論（医学書院） 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論（医学書院） 疾患別看護過程の展開（学研） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3] 循環器（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7] 脳・神経（医学書院）						
参考図書	看護過程に沿った対症看護（学研） 周手術期看護2 術中術後の生体反応と急性期看護（医歯薬出版） 周術期看護 安全・安楽な看護の実践（インターメディカ） 高齢者と周手術期看護（医歯薬出版）						
オフィスアワー	（担当講師との連絡相談・確認方法・時間など） 実習や会議や出張等で質問に応じられない場合もありますが、それ以外ではできるだけ対応します 質問・相談がある場合は事前に時間調整していただけると対応しやすいです						
備考							

授業科目	健康の慢性的な揺らぎの再調整を促す看護	単位	1	時間	30	履修時期	H31年度 1年次 2学期	
設定理由	複雑な様相を呈する成人期の健康問題に対応して看護活動が時期を逸せず実施するための基礎的知識・技術を各健康レベルの代表的な疾患を用いながら習得する							
学習目標	慢性疾患をもち生涯セルフコントロールを必要とする対象の特徴を理解し、セルフケア能力を高めるための看護を学ぶ							
授業の概要								
授業内容（講義ことの内容）	1 慢性的な健康状態の揺らぎをきたした人の理解						担当者（時間）	
	2 慢性病との共存の過程を支える看護師の役割						看護師（15）	
	3 慢性疾患をもつ患者の看護 1) 腎臓機能障害がある患者の看護 腎不全・透析療法患者の看護						看護師（15）	
	2) 栄養摂取・代謝機能障害がある患者の看護 糖尿病 看護技術演習：患者教育・血糖測定							
						教員の連携と協力体制		
評価	筆記試験							
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1] 成人看護学総論（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8] 腎・泌尿器（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[6] 内分泌・代謝（医学書院） 経過別看護過程の展開（学研）							
参考図書	シリーズ生活をささえる看護 生活調整を必要とする人の看護Ⅰ（中央法規） 看護過程に沿った対症看護看護過程に沿った対症看護							
オフィスア	（担当講師との連絡相談・確認方法・時間など） 講義の前後などに各講師に確認をする。それ以外はクラス担任に相談してください							
備考								

授業科目	障害を持ちながら生活する人を支援する看護	単位	1	時間	30	履修時期	H31年度 1年次 2学期
設定理由	複雑な様相を呈する成人期の健康問題に対応して看護活動が時期を逸せず実施するための基礎的知識・技術を各健康レベルの代表的な疾患を用いながら習得する						
学習目標	ボディイメージの変化や障害をもちながら生活する対象の特徴を理解し、障害受容と生活再構築への看護を学ぶ						
授業の概要							
授業内容（講義ことの内容）	1 ボディイメージの変化・障害をもちながら生活する人の理解					担当者（時間）	
	2 侵襲的治療によりボディイメージの変化をきたした人への看護 1)乳房切除術を受けた患者の看護 2)人工肛門造設術を受けた患者の看護 3)生活行動に障害をもちながら生活する人への看護(脳梗塞)					看護師(6) 看護師(5)  看護師(10)  看護師(9)	
						教員の連携と協力体制	
評価	筆記テスト						
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[5] 消化器（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7] 脳・神経（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9] 女性生殖器（医学書院）						
参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1] 成人看護学総論（医学書院） シリーズ生活をささえる看護 生活の再構築を必要とする人の看護Ⅰ（中央法規） 看護過程に沿った対症看護 経過別看護過程の展開（学研）						
オフィスアワー	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など) 講義の前後などに各講師に確認をする。それ以外はクラス担任に相談してください						
備考							

授業科目	人生の最期のときを支える看護 (生命を支える看護)	単位	1	時間	30	履修時期	H31年度 2年次 1学期	
設定理由	複雑な様相を呈する成人期の健康問題に対応して看護活動が時期を逸せず実施するための基礎的知識・技術を各健康レベルの代表的な疾患を用いながら習得する							
学習目標	近い将来、死を免れない対象の特徴を理解し、苦痛の緩和と安らかな死への看護を学ぶ							
授業の概要								
授業内容(講義ことの内容)	1. 終末期医療の現状						担当者(時間)	
	2. 人生の最期のときを過ごしている人の理解						看護師 (13)	
	3. 人生の最期のときを支える看護師の役割						看護師(7)	
授業内容(講義ことの内容)	4. がん患者の看護						看護師(6)	
	1) 化学療法概論、化学療法看護、抗がん剤の投与管理						看護師(4)	
	2) 抗がん剤暴露対策、悪心嘔吐ケア							
	3) 骨髄抑制と看護ケア							
	4) 末梢神経障害と看護ケア							
5) 事例検討								
	教員の連携と協力体制							
評価	筆記試験							
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1] 成人看護学総論 (医学書院) ステップアップがん化学療法看護(学研) 系統看護学講座 別巻 臨床看護総論 (医学書院) 別巻緩和ケア(医学書院) 経過別看護過程の展開 (学研) がん放射線療法の理解とケア(学研)							
参考図書	シリーズ生活をささえる看護 がん患者の看護Ⅰ (中央法規) 看護過程に沿った対症看護							
オフィスア	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など)							
備考								

授業科目	成人看護実践方法論	単位	1	時間	30	履修時期	H31年度 2年次 1学期
設定理由	人はさまざまな健康レベルを移行しつつ生活している。たとえ疾病や障害があっても、「そのときその状況におけるその人にとってのすこやかな状態」は存在する。成人看護学の知識を統合し、看護過程の応用展開と実習への移行を容易にするため、成人期にある人々のもつ健康課題を理解し、要因を分析して対象とその家族に対する援助の必要性を見出すための思考のプロセスを学ぶ。						
学習目標	1. 健康障害のある患者の特徴と看護問題、援助方法を理解する。 2. 事例をとおして、患者の状態を判断し、健康上の問題・課題の解決をはかるための援助が行える。						
授業の概要	事例を用いて、急性期あるいは慢性期にある患者への実践的な看護を学ぶ。実習につながる科目として、以下の時期に実施する。 成人看護学実習Ⅰに備えて、慢性期にある患者への指導方法の実際について演習を行い、実習前までに終了する。 成人看護学実習に備えて、実習で使用する記録様式を用いて演習を行う。						
授業内容（講義ことの内容）	1. 健康レベルに対応した看護の方向性の導きだし方 2. 急性期・慢性期にある成人患者への看護実践 1)慢性期にある成人期の患者の看護 ・ 健康障害とともに生活する人への教育 ・ 慢性症状に伴う苦痛の緩和や癒しのケア 2)急性期にある成人期の患者の看護 ・ 周手術期の身体侵襲の理解 ・ 術後合併症の予防の看護						担当者(時間)
							専任教員(15)
							専任教員(15)
							教員の連携と協力体制
評価	筆記試験で評価する						
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[4] 臨床看護総論（医学書院） 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論（医学書院） 看護過程を使ったヘンダーソン看護理論の実践（ヒロカワ・ヌーベル）						
参考図書	疾患別看護過程の展開（学研） 看護過程に沿った対症看護（学研）						
オフィス	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など) 実習や出張等で不在の場合がありますが、それ以外は質問・相談を受け付けます。						
備考	実習に備えた課題演習をします。						

授業科目	成人看護学実習 I (慢性期にある対象の看護)	単位	2	時間	90	履修時期	H31年度 2年次 1学期
設定理由	健康障害のある対象を生活者の視点で総合的に捉え、対象の健康レベルに応じた健康の回復・適応にむけた援助の方法を実践をととして学ぶ						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>慢性期にある成人期の対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解できる</li> <li>慢性期にある対象の身体的状態に応じた看護が実践できる</li> <li>慢性期にある対象、および家族の精神的社会的状況に応じた看護が実践できる</li> <li>慢性期にある対象、および家族を取り巻くチームにおける看護、及び、他職種における機能・役割を理解する</li> <li>看護学生としての責任ある行動がとれる</li> </ol>						
授業の概要	患者を受け持ち、生活場面と診療場面へのかかわりを通して対象のニーズを捉え、個別的な看護の必要性と援助方法を看護過程のステップをふみながら学ぶ						
授業内容（講義ことの内容）	看護過程の展開技術を用いて科学的思考に基づいた援助を行う						担当者(時間)
	<ol style="list-style-type: none"> <li>成人期の慢性期にある対象の特徴を理解する <ol style="list-style-type: none"> <li>身体的・精神的・社会的側面の発達と発達課題</li> <li>自己概念と役割</li> <li>生活習慣とライフスタイル</li> <li>家族</li> </ol> </li> <li>慢性疾患の理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>慢性疾患の特徴</li> <li>疾患と治療の経過、合併症や二次的障害、憎悪因子</li> <li>生活への影響、QOL</li> <li>インフォームド・コンセント</li> <li>病気の受け止め、ストレスと悲嘆と受容の状況</li> </ol> </li> <li>セルフケアの再構築や習得への支援 <ol style="list-style-type: none"> <li>セルフケア能力の評価</li> <li>セルフケア能力の維持向上の援助</li> <li>自己管理に向けた指導</li> <li>サポートチームの機能と役割</li> <li>家族への支援</li> </ol> </li> </ol>						専任教員
							教員の連携と協力体制
							各病棟の実習担当教員
評価	受け持ち患者に対する看護実践、実習の取り組み姿勢 評価表に従い、実習目標への到達度、実習状況(出席状況・実習態度)、実習記録物の提出等について総合的に評価する						
テキスト							
参考図書							
オフィス	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など) 会議や出張等で実習病棟へ行けない場合は、随時連絡します。それ以外は実習時間にかかわらず質問・相談を受け付けます						
備考	体験内容の言語化を通して、学習内容の理解を深め、実践と理論を統合していきましょう。学習した内容が統合・活用できるように、実技演習した基本的技術をさまざまな条件をもった対象を想定して応用できるように練習しておきましょう 3週間にわたる実習です。体調管理に気をつけてください。具体的な実習方法については、実習要項を確認しましょう。						

授業科目	成人看護学実習Ⅱ (急性期・回復期の看護)	単位	2	時間	90	履修時期	H31年度 3年次 1学期～2学期
設定理由	健康障害のある対象を生活者の視点で総合的に捉え、対象の健康レベルに応じた健康の回復・適応にむけた援助の方法を実践をととして学ぶ						
学習目標	1 周手術期にある成人期の対象を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解できる。 2 周手術期にある対象の身体的状態に応じた看護が実践できる。 3 対象および家族の精神的・社会的状況に応じた看護が実践できる。 4 対象をとりまくチームにおける看護および他職種の機能・役割を理解できる。						
授業の概要	患者を一人受け持ち、生活場面と診療場面へのかかわりを通して対象のニーズを捉え、個別的な看護の必要性と援助方法を看護過程のステップをふみながら学ぶ。						
授業内容 (講義ごとの内容)	看護過程の展開技術を用いて科学的思考に基づいた援助を行う						担当者(時間)
	1 手術による身体侵襲からの回復促進への看護 1) 手術による精神的苦痛の緩和 2) 手術による身体的苦痛の緩和 3) 術後の生活行動拡大への援助 4) 治療・検査時の援助 5) 家族への対応  2 障害受容と生活の自立への看護 1) 生活行動獲得への援助 2) 障害受容への援助 3) 社会生活適応にむけての援助						専任教員
							教員の連携と協力体制
							各病棟の実習担当教員
評価	受け持ち患者に対する看護実践、実習の取り組み姿勢 評価表に従い、実習目標への到達度、実習状況(出席状況・実習態度)、実習記録物の提出等について総合的に評価する。						
テキスト							
参考図書							
オフィス	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など) 会議や出張等で実習病棟へ行けない場合は、随時連絡します。それ以外は実習時間にかかわらず質問・相談を受け付けます。						
備考							

授業科目	成人看護学実習Ⅲ (終末期にある対象の看護)	単位	2	時間	90	履修時期	H31年度 3年次 1学期～2学期
設定理由	健康障害のある対象を生活者の視点で総合的に捉え、対象の健康レベルに応じた健康の回復・適応にむけた援助の方法を実践をとおして学ぶ						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 終末期にある対象を身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面からそれぞれの苦痛をもつ全人的苦痛のある存在として理解できる</li> <li>2. 終末期にある対象の身体的状態、及び、精神的・社会的・スピリチュアルな状況に応じた看護が実践できる</li> <li>3. 終末期にある対象を取り巻く看護、及び、他職種における機能と役割を理解する</li> <li>4. 看護学生としての責任ある行動がとれる</li> </ol>						
授業の概要	患者を受け持ち、生活場面と診療場面へのかかわりを通して対象のニーズを捉え、個別的な看護の必要性和援助方法を看護過程のステップをふみながら学ぶ						
授業内容（講義ごとの内容）	看護過程の展開技術を用いて科学的思考に基づいた援助を行う					担当者(時間)	
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 全人的な苦痛の緩和と安らかな死への援助(苦痛を最小限にし、生きることへの援助) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 身体的苦痛の緩和</li> <li>2) 精神的苦痛の緩和</li> <li>3) 社会的苦痛の緩和</li> <li>4) スピリチュアルな苦痛の緩和</li> <li>5) QOL向上</li> <li>6) 家族への配慮</li> </ol> </li> </ol>					専任教員	
						教員の連携と協力体制	
評価	受け持ち患者に対する看護実践、実習の取り組み姿勢 評価表に従い、実習目標への到達度、実習状況(出席状況・実習態度)、実習記録物の提出等について総合的に評価する						
テキスト							
参考図書							
オフィス	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など) 会議や出張等で実習病棟へ行けない場合は、随時連絡します。それ以外は実習時間にかかわらず質問・相談を受け付けます						
備考	体験内容の言語化を通して、学習内容の理解を深め、実践と理論を統合していきましょう。学習した内容が統合・活用できるように、実技演習した基本的技術をさまざまな条件をもった対象を想定して応用できるように練習しておきましょう 3週間にわたる実習です。体調管理に気をつけてください						

授業科目	老年看護学概論	単位	1	時間	30	履修時期	H31年 1年次 2学期
設定理由	高齢者の看護学を行うには、高齢者を生物学的・社会的な変化の中で捉え、老いて生きる人々の生活とそれを取り巻く社会の視点で高齢者の多様性を理解する必要がある。様々な障害をもつ高齢者の健康と生活を支える看護を実践していくための基本的な考え・知識を学ぶ						
学習目標	老年期の加齢による特徴を身体的・精神的・社会的側面から理解する。 加齢に伴う生理的機能低下に伴う健康問題について理解する。						
授業の概要	高齢者の身体機能・心理・社会生活を理解し、その健康やQOLを高める援助、穏やかな死を迎える援助の基盤となる知識について教授する。						
授業内容（講義ごとの内容）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老いるということ、老いを生きるということ</li> <li>2. 超高齢社会と老年看護学 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 超高齢社会の現況</li> <li>(2) 日本における老年看護の成り立ち</li> </ol> </li> <li>3. ライフサイクルにおける高齢者の位置づけ <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ライフサイクルにおける高齢期</li> <li>(2) 老年期における適応とサクセスフルエイジング</li> </ol> </li> <li>4. 加齢に伴う身体的・生理的変化</li> <li>5. 高齢者における健康課題と問題 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 老年症候群</li> <li>(2) 閉じこもり</li> <li>(3) 高齢者の健康を育む支援と自立支援</li> </ol> </li> <li>6. 老年期の家族関係と社会生活 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 高齢者の社会参加</li> <li>(2) 介護に関連する問題と家族支援</li> </ol> </li> <li>7. 老年看護の本質</li> <li>8. 高齢者社会における権利擁護と倫理的課題 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 高齢者虐待</li> <li>(2) 高齢者、及び、家族の意思決定を支援する</li> </ol> </li> <li>9. 老いと死 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 高齢者の死亡の動向</li> <li>(2) エンド・オブ・ライフケア</li> </ol> </li> <li>10. 老年看護の実践活動の場</li> </ol>	担当者(時間)					
		専任教員(30)					
		教員の連携と協力体制					
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 老年看護学 (医学芸術社)						
参考図書							
オフィスア	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など) 実習や主張などで不在の場合がありますが、それ以外は質問・相談随時受け付けます						
備考							

授業科目	老年保健	単位	1	時間	15	履修時期	H31年度 2年次 1学期
設定理由	近年の急速な少子高齢社会の動向により、老年期にある人が地域で生活するための健康への支援が看護に求められている。そのため、社会における高齢者の動向を知り、社会保障制度を理解し看護実践に必要な看護の方法を学ぶ。						
学習目標	老年の保健医療福祉の場における問題を理解し、看護の機能と役割を理解する						
授業の概要							
授業内容（講義ごとの内容）	1. 現代の高齢者の動向と社会問題 1) 高齢者人口割合  2. 高齢者をとりまく社会保障 1) 保健医療福祉制度の概要 2) 介護保険システム  3. 社会資源の活用 1) 訪問サービス 2) 通所サービス 3) グループホーム 4) ユニットケア 5) 施設サービス  4. 各施設における看護ケア、在宅ケア 1) 訪問介護サービス 2) 訪問入浴サービス 3) 福祉用具貸与サービス 4) 訪問看護  5. 家族看護 1) 家族エンパワーメント 2) 地域における活動と課題						担当者(時間)
							非常勤講師(15)
							教員の連携と協力体制
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学（医学書院） 国民衛生の動向						
参考図書							
オフィスア	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など)						
備考							

授業科目	老年看護技術	単位	1	時間	30	履修時期	H31年度 2年次 1学期
設定理由	老年期の看護の対象に応じた看護実践ができるために健康の段階と加齢に応じた高齢者の日常生活援助を学ぶ						
学習目標	加齢変化などによる生活機能障害や健康問題の理解を深め、その解決、または生活の質の維持・向上にのための看護援助の基礎となる知識と技術を習得する。						
授業の概要	加齢変化や高齢者特有の生活機能障害や健康問題の理解をもとに、高齢者ケアにおけるアセスメント、実施、評価までの方法について、講義、演習などを通して教授する。						
授業内容（講義）との内容	1. 高齢者とのコミュニケーション 1) 高齢者とのコミュニケーション 2) ユマニチュードの概念 3) 高齢者が話す自分史を注意深く聴く関係づくりの技法 2. 加齢変化と高齢者特有な生活機能障害の実際 1) 高齢者疑似体験 2) 高齢者に看護技術を行う上での配慮と留意点 3. 高齢者の食生活と摂食・嚥下障害 1) 高齢者にとっての食事の意義と健康 2) 低栄養と脱水の予防 3) 高齢者の加齢と障害による摂食・嚥下障害とケアの実際 4) 誤嚥のリスクが高い高齢者の看護実践（演習） 4. 高齢者の排泄パターンと排泄障害 1) 高齢者に起こりやすい排泄パターンの変調 2) 便秘、尿・便失禁のメカニズム 3) 排泄の援助：おむつを利用する高齢者の看護実践（演習） 5. 清潔保持と衣服調節 1) 高齢者にとっての清潔の意義とスキンケア 2) 衣服の調節とうつ熱 3) 高齢者に特徴的な皮膚の障害とかゆみ 6. 高齢者の事故防止と安全への援助 1) 高齢者の事故の概要と背景 2) 日常生活を支える基本動作と身体可動性障害と廃用症候群 3) 転倒予防のアセスメントとケアの実際 7. 高齢者の生活リズムと睡眠パターン 1) 高齢者の生活リズムに影響を与える因子とアクティビティ 2) 高齢者の睡眠の特徴と睡眠障害改善の援助 8. 高齢者の疼痛緩和と安楽の援助 1) 高齢者に多くみられる疼痛の理解と緩和のための援助 2) 薬物療法時のケアマネジメントの方法 9. 入院している高齢者の看護実践（外部講師担当） 1) 病棟で療養している高齢者の理解 2) 病棟で療養している高齢者の日常生活援助技術 3) 病棟で療養している高齢者の看護 パーキンソン病患者、ALSで人工呼吸管理を必要とする在宅療養をする患者の看護						担当者(時間)
							専任教員(23)
							看護師(7)
							教員の連携と協力体制
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院） 写真でわかる高齢者ケア（インターメディカ） 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学7 脳・神経						
参考図書							
オフィスア	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など) 教務室に在室している時(17時まで)						
備考							

授業科目	老年看護実践方法論	単位	1	時間	30	履修時期	H31年度 2年次 1学～2学期
設定理由	老年期における代表的な疾患をもとに必要な看護技術をふまえて看護実践方法を学ぶ						
学習目標	老年期における対象の健康上の問題を明らかにし、援助の方法を理解する						
授業の概要	老年期における対象の健康上の問題を明らかにし、援助の方法について、認知症高齢者、誤嚥、胃瘻造設、大腿骨頸部骨折患者の看護について取り上げる						
授業内容（講義ごとの内容）	看護過程の展開 1. 認知症高齢者の看護（認知症） 1) 認知症高齢者とのコミュニケーション  2. 慢性期における高齢者の看護（肺炎） 1) 誤嚥予防 2) 胃ろう管理  3. 急性期・回復期における高齢者の看護（大腿骨頸部骨折） 1) 術後せん妄 2) リハビリテーション						担当者（時間）
							看護師（13）  看護師（7）  専任教員（10）
							教員の連携と協力体制
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学（医学書院） 経過別看護過程の展開（学研）						
参考図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑩ 運動器（医学書院） 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学（医学書院）						
オフィスア	（担当講師との連絡相談・確認方法・時間など）						
備考							

授業科目	老年看護学実習 I (健康な高齢者の理解)	単位	2	時間	90	履修時期	H31年度 2年次 2学期
設定理由	対象を個別的な存在として理解するために健康の保持増進のための看護を学ぶ。						
学習目標	健康な老年期にある対象の理解を深め、健康の保持増進のための看護方法を理解する。						
授業の概要							
授業内容(講義ことの内容)	1. 健康な高齢者の理解 2. 施設で生活している高齢者の理解 3. 施設で生活している高齢者の健康保持増進の方法 4. 加齢に伴う生理的機能低下の理解						担当者(時間)
							専任教員
							教員の連携と協力体制
							各担当教員
評価	受け持ち患者に対する看護実践、実習の取り組み姿勢						
テキスト							
参考図書							
オフィスア	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など)						
備考	院外実習である ハンセン施設は宿泊研修						

授業科目	老年看護学実習Ⅱ (入院療養中の老年の看護)	単位	2	時間	90	履修時期	H31年度 2年次 2学期
設定理由	老年期の健康障害がある対象を総合的にとらえ、対象に応じた看護ができるように学ぶ。						
学習目標	老年期の健康障害のある対象を総合的に理解し、看護過程の展開ができる。						
授業の概要							
授業内容 (講義ことの内容)	1. 健康レベルにあわせた高齢者の理解 2. 入院中の高齢者の看護援助方法 3. 高齢者を支援する家族看護の理解						担当者(時間)
							専任教員
							教員の連携と協力体制
							各担当教員
評価	受け持ち患者に対する看護実践、実習の取り組み姿勢						
テキスト							
参考図書							
オフィスアワー	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など)						
備考							

授業科目	小児看護学概論	単位	1	時間	30	履修時期	H31年度 2年次 1学期
設定理由	看護は子どもの心身の成長発達過程における特徴を理解し、子どもを取り巻く親、家族あるいは家庭以外の環境を含めた視点で対象を理解する必要があり、健康レベルを問わず、成長発達を助け、健全な人格形成のための援助を考えなければならない。また、小児を取り巻く環境、社会、保険医療福祉制度のしくみと関連づけながら各成長発達段階に適した健康生活と用語について理解する。						
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児各期の特徴と成長・発達について、身体的・精神的・社会的側面から理解する。</li> <li>・小児を取り巻く環境、社会、保険医療制度のしくみと関連づけ、発達段階に適した健康な生活と養護について理解する。</li> </ul>						
授業の概要	小児の対象理解に重点を置き、小児を取り巻く社会の理解を通して、小児の健康維持増進につながる基礎的知識を学ぶ。						
授業内容（講義）との内容）	1. 小児看護の変遷と理念 （子どもの権利及び倫理を含む）  2. 小児看護の対象理解 1) 成長発達とは 2) 小児における発達理論（発達課題とかかわり、人格の形成） 3) 小児各期の身体的（形態的・機能的・運動的）特徴、精神的（情緒的、知的）特徴、社会的特徴 4) 成長発達の進み方と影響する因子 5) 小児の成長発達と健康問題・健康評価  3. 小児保健 1) 小児保健の意義、動向と対策 2) 小児保健活動と看護師の役割  4. 小児の生活と寐  5. 小児の栄養 1) 小児各期の栄養の特徴と評価 2) 食育と食生活上の問題  6. 小児の安全（事故防止と安全教育）  7. 小児看護の機能と役割 1) 疾患・障害をもつ小児と家族の看護 2) 家族アセスメント	担当者（時間）					
		専任教員(30)					
		教員の連携と協力体制					
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 専門22 小児看護学1小児看護概論 小児臨床看護総論（医学書院）						
参考図書	看護のための人間発達学／舟島なをみ（医学書院） 系統看護学講座 専門23 小児看護学2 小児臨床看護各論（医学書院）						
オフィス	（担当講師との連絡相談・確認方法・時間など）						
備考	* 対象理解のための課題レポート等に取り組み、自ら小児の理解を進めていく。						

授業科目	健康障害のある小児の理解	単位	1	時間	30	履修時期	H31年度 2年次 1学期
設定理由	小児各期におけるあらゆる健康段階の特徴と家族を理解し、健康障害及び入院が及ぼす影響と個別性を看護の実践と結びつけ理解するため、疾患の病因、病態生理、診断、治療などについて医学的知識及び生活習慣病予防の視点を学ぶ。						
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児各期のあらゆる健康段階における対象と家族を理解する。</li> <li>・健康障害とその治療処置がもたらす影響を看護実践に結びつけ理解する。</li> </ul>						
授業の概要	小児の成長発達にあわせ、小児各期の健康障害、疾患の原因、病態生理、検査、治療、などについて学ぶ。						
授業内容 (講義ごとの内容)	1. 小児疾患の病態生理 1) 新生児期の疾患(出生前疾患・遺伝疾患を含む) 2) 悪性腫瘍 3) 栄養消化吸収(成長障害を含む) 4) 呼吸、循環 5) 造血凝固及び免疫、感染症 6) 腎泌尿器 7) 代謝内分泌 8) 脳神経、運動 9) 精神、虐待 2. 疾患や症状の及ぼす影響 3. 健康回復・維持のための治療、処置、検査とその影響 (予防接種等を含む)						担当者(時間)
							医師(30)
							教員の連携と協力体制
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 専門22 小児看護学1 小児看護概論 小児臨床看護総論 (医学書院) 系統看護学講座 専門23 小児看護学2 小児臨床看護各論 (医学書院)						
参考図書							
オフィスアワー	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など)						
備考	* 解剖生理学、病理学、成人看護学等の知識を想起しながら、小児の特徴である機能の未熟さの影響、小児特有の疾患の理解をする。						

授業科目	小児看護技術	単位	1	時間	30	履修時期	H31年度 2年次 1学期
設定理由	小児各期の健康障害をもつ児と家族を理解し、小児特有の疾患、症状、経過に応じた看護、小児に影響する治療、処置、検査に伴う看護を学ぶ。また、成長発達を踏まえた個性を重視した看護を実践するための方法、特殊看護技術を理解する。						
学習目標	・小児特有の疾患、症状に応じた看護を学び、それに伴う特殊な看護技術の方法について成長・発達をふまえて理解する。						
授業の概要	小児の特徴を理解し、アセスメントを行い療養上の世話と診療の補助の援助ができるように講義・演習を通して学ぶ。						
授業内容 (講義ことの内容)	1. 小児のアセスメント 1)コミュニケーション 2)フィジカルアセスメント						担当者(時間)
	2. 検査・処置を受ける小児の看護 1)検査 2)処置 3)心肺蘇生術						看護師(8) 専任教員(22)
	3. 外来受診や入院を必要とする小児と家族の看護 4. 主要症状への看護 5. 経過、治療処置別看護 6. 健康障害をもつ小児の生活と看護 7. 障害のある小児と家族の看護						教員の連携と協力体制
評価	各講師別に筆記試験を行う						
テキスト	系統看護学講座 専門22 小児看護学1 小児看護概論 小児臨床看護総論 (医学書院) 系統看護学講座 専門23 小児看護学2 小児臨床看護各論 (医学書院)						
参考図書	写真でわかる小児看護技術 山元恵子 (インターメディカ)						
オフィス	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など)						
備考	* 基礎看護技術・成人看護学を想起しながら、小児の成長発達段階かくる特徴的な技術を学ぶ。 * 小児の特徴を踏まえた看護技術・援助の際の工夫・発想に取り組む。						

授業科目	小児看護実践方法論	単位	1	時間	30	履修時期	H31年度 2年次 2学期
設定理由	小児各期の健康障害をもつ児と家族の看護を実践するため、知識を統合・発展させ、疾患の特徴となる経過を踏まえた看護過程の展開技術を学ぶ。そして、看護過程の展開を通して、知識・技術を応用する能力を養い、小児看護の特徴について具体から学ぶ。						
学習目標	小児各期の健康障害をもつ児と家族の看護を実践するため、知識を統合・発展させ、疾患の特徴となる経過を踏まえた看護過程の展開技術を学ぶ。そして、看護過程の展開を通して、知識・技術を応用する能力を養い、小児看護の特徴について具体から学ぶ。						
授業の概要	小児看護概論・健康障害のある小児の理解・小児看護技術で学んだ知識を活用し、小児の看護過程の特徴、小児の各発達段階別・疾患の特徴及び経過別のアセスメントの特徴を捉えながら、看護過程の実際を展開する。						
授業内容（講義ことの内容）	1. 小児の看護課程の特徴 各発達段階別・疾患の特徴及び経過別のアセスメントの特徴 （気管支喘息の患児の看護の看護過程）  2. 看護過程の実際 1)川崎病、気管支喘息の患児の看護（急性期） 急性疾患の症状、処置による心身の苦痛の強い時期～回復期の看護 2)腎疾患、ネフローゼ症候群の患児の看護（慢性期） 発症から在宅（外来通院）に向けての看護（退院後の生活制限のある児と家族への看護） * 生活指導を含む 3)急性リンパ性白血病の患児の看護（終末期） 長期入院・心身の苦痛の強い患児・家族のQOLを考えた看護						担当者（時間）
							看護師（17） 専任教員（13）
							教員の連携と協力体制
評価	各講師別に筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 専門22 小児看護学1 小児看護概論 小児臨床看護総論（医学書院） 系統看護学講座 専門23 小児看護学2 小児臨床看護各論（医学書院）						
参考図書	発達段階からみた小児看護過程 医学書院 系統看護学講座 専門2 基礎看護技術Ⅰ（医学書院） 看護の基本となるもの ヴァージニア・ヘンダーソン（日本看護協会出版会）						
オフィス	（担当講師との連絡相談・確認方法・時間など）						
備考	* 手術は経過治療処置別で押さえる。						

授業科目	小児看護学実習	単位	2	時間	90	履修時期	H31年度 3年次 1学期～2学期
設定理由	小児期にある対象と家族を理解し、成長・発達段階・健康段階に応じた看護を実践する基礎的能力を養う。						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児各期の成長発達段階に応じた、養育の必要性を理解する。</li> <li>2. 小児各期の成長発達の過程を理解し、健康障害から生じる成長発達への影響を考え援助ができる。</li> <li>3. 健康障害や入院生活が小児とその家族におよぼす影響について理解する。</li> <li>4. 健康障害をもつ小児とその家族に必要な看護援助を安全に行う。</li> <li>5. 小児看護における継続看護の必要性を理解し、保健医療チームの一員としての自覚をもつ。</li> </ol>						
授業の概要	正常な発達の小児の理解を基盤に、健康問題のある小児をうけもち、小児の発達段階にあわせた援助計画を立案し、実施評価する。						
授業内容（講義ごとの内容）	幼稚園実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児の成長発達</li> <li>2. 幼児の遊び、生活習慣としつけの実際</li> </ol> 病棟実習・小児科外来実習 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児のおかれている環境の理解</li> <li>2. 小児特有の健康障害と関連する解剖生理・病態、症状、検査、治療処置</li> <li>3. 観察、コミュニケーションを通じた情報収集</li> <li>4. 得られた情報の関連づけ、看護介入の必要となる問題点・課題の明確化</li> <li>5. 小児の成長・発達段階、生活リズム、健康障害を考慮した援助計画の立案</li> <li>6. 小児の特性を理解した安全・安楽な看護の実施・展開</li> <li>7. 継続看護・家族看護の必要性について</li> <li>8. 小児看護における保健医療福祉チームでの看護の役割</li> </ol>						担当者（時間）
							専任教員
							教員の連携と協力体制
評価	受け持ち患者に対する看護実践・実習の取り組み姿勢および記録物						
テキスト	系統看護学講座 専門22 小児看護学1 小児看護概論 小児臨床看護総論（医学書院） 系統看護学講座 専門23 小児看護学2 小児臨床看護各論（医学書院） 写真でわかる小児看護技術 インターメディカ						
参考図書	発達段階からみた小児看護過程 医学書院						
オフィスア	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など)						
備考							

授業科目	母性看護学概論	単位	1	時間	30	履修時期	H31年度 2年次 1学期		
設定理由	母性看護は、健康・疾病を問わず胎児期から老年期にある人々とその家族を対象とする。特に、女性の一生を通じた成長・発達をふまえ、各ライフステージに特有の健康問題とその看護について理解する。さらに、高度生殖補助医療の発展に伴い、不妊治療を受ける対象や、出生前診断についても学習する。母子保健の現状を把握し、母性をとりまく社会状況、女性の生き方の変化や、少子社会の現状などについて理解し、母性の概念と母性看護の対象を理解し、母性看護の目的や役割を学ぶ。								
学習目標	母性の概念と母性看護の対象を理解し、母性看護の目的や役割を理解する。								
授業概要	母性の概念と対象、ライフサイクル各期における健康問題、保健統計データ、母性看護における倫理的問題などを用いて講義形態のみならず学生同志のグループワークで学ぶ								
授業内容（講義ごとの内容）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母性看護の基盤となる概念</li> <li>2. 母性看護における倫理・法律・施策</li> <li>3. 母子保健統計</li> <li>4. リプロダクティブヘルス・ライツ</li> <li>5. 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化</li> <li>6. 月経周期</li> <li>7. 性と生殖</li> <li>8. 家族計画</li> <li>9. 女性のライフステージ各期の健康問題</li> <li>10. 性感染症</li> <li>11. 遺伝と出生前診断</li> <li>12. 生殖医療と不妊（外部講師）</li> </ol>	担当教員（時間）							
							専任教員（14）		
							専任教員（14）		
					医師（2）				
					教員の連携と協力体制				
評価	筆記試験								
テキスト	医学書院 系統看護学講座 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 母性看護学各論 メヂカフレンド社 母性看護技術 厚生統計協会 国民衛生の動向								
参考図書	ナーシング・グラフィカ 母性看護実践の基本								
オフィス	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など) 教務室に在室中には状況に応じて対応します								
備考									

授業科目	妊産褥婦・新生児の看護	単位	2	時間	60	履修時期	H31年度 2年次 1学期～2学期
設定理由	妊娠・分娩・産褥の各期および新生児の生理と看護について学習する。事例を教材にして対象の妊娠・出産・育児にまつわる個別性をとらえ、状況を考え判断できるように、看護実践方法論を使いながら対象への看護を実践し、評価する能力や技術、態度について学習する。						
学習目標	正常な妊娠・分娩・産褥・新生児に関する看護の方法を理解する。						
授業の概要	正常な妊娠・分娩・産褥・新生児に関する看護の方法を理解する。また、正常な経過を促進し、正常からの逸脱を早期発見できるよう、事例を用いてウェルネスな視点で症状・経過・看護の方法を学ぶ。また、学内実技として妊娠期のレオポルド触診法、産褥期の進行性変化と退行性変化の観察方法、新生期の沐浴を実習する。						
授業内容（講義ことの内容）	1. 妊娠の成立と胎児発育 2. 妊娠期の母体の生理的变化 3. 妊娠期の妊婦と胎児の経過診断とアセスメント 4. 妊婦と家族の看護 5. 分娩の3要素と機序 6. 分娩経過と看護 7. 胎児心拍モニタリング 8. 新生児の生理 9. 新生児の子宮外適応のアセスメントと看護 10. 産褥期の褥婦の身体的・心理社会的変化 11. 褥婦の進行性変化の観察と看護 12. 褥婦の退行性変化の観察と看護 13. 褥婦と家族の看護 14. 母性看護におけるウェルネス型志向の看護過程の実践 15. 学内技術演習（妊婦体験、子宮底・腹囲測定、レオポルド触診法、新生児の沐浴）					担当教員（時間）	
						専任教員（30）  医師（10） 医師（10） 医師（10）	
						教員の連携と協力体制	
評価	筆記試験						
テキスト	医学書院 系統看護学講座 母性看護学各論 メヂカフレンド社 母性看護技術						
参考図書	メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 母性看護技術 医学書院 母性看護過程の授業設計 医学書院 日本助産診断・実践研究会編著 マタニティ診断 医歯薬出版株式会社 ウェルネス看護診断にもとづく母子看護過程						
オフィス	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など) 教務室に在室中には状況に応じて対応します						
備考							

授業科目	周産期におけるハイリスク時の看護	単位	1	時間	15	履修時期	H31年度 2年次 2学期
設定理由	臨床における周産期看護においては、正常と異常との境界が明瞭ではなく正常ではあるが異常へ移行のおそれがある状況が多く存在する。このことからハイリスクという考え方で周産期におけるハイリスク看護を学ぶ。						
学習目標	正常ではあるが異常へ移行する恐れのある妊婦に対する看護の方法について理解する。						
授業の概要	正常な状態を理解しそこから逸脱状態として早期発見のための徴候理解と報告の必要性を学ぶ						
授業内容（講義ごとの内容）	1. 異常へ移行する恐れのある妊婦の看護					担当教員（時間）	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・悪阻</li> <li>・切迫流産</li> <li>・切迫早産</li> <li>・妊娠高血圧症候群</li> </ul>					看護師（15）	
	2. 異常へ移行する恐れのある産婦の看護					教員の連携と協力体制	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NSTの異常</li> <li>・CTGの異常</li> <li>・前、早期破水</li> <li>・陣痛の異常</li> </ul>						
	3. 異常へ移行する恐れのある褥婦の看護						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子宮復古不全</li> <li>・マタニティーブルーズ</li> <li>・乳腺炎</li> <li>・帝王切開術を受ける妊婦の看護</li> </ul>						
	4. 異常へ移行する恐れのある胎児・新生児の看護						
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・胎児機能不全</li> <li>・低体温</li> <li>・低血糖</li> <li>・新生児黄疸</li> <li>・グリーフケア</li> </ul>						
評価	筆記試験						
テキスト	医学書院 系統看護学講座 母性看護学2各論 メヂカフレンド 母性看護技術						
参考図書							
オフィスアワー	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など) あらかじめアポイントをとり相談すること						
備考							

授業科目	母性看護学実習	単位	2	時間	90	履修時期	H31年度 3年次 1学期～2学期
設定理由	看護の対象を母性の視点から理解し、母性の健康を保持増進してゆくために必要な知識・技術・態度を学習する。 主に妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象を全体的に捉え、母子の発達段階を考慮した個別的な看護実践の方法を学ぶ。						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周産期にある母子の全体像が理解できる。</li> <li>2. 妊産褥婦および新生児の特徴をふまえた看護過程の展開ができる。</li> <li>3. 母子の発達段階を考慮した援助ができる。</li> <li>4. 生命の尊厳や母性看護について、自己の考えを深めることができる。</li> </ol>						
授業の概要	<p>実習前には事前学習課題に取り組み、専門用語、基礎知識を確認してから実習場へ行く。 周産期の対象を受け持つことができるにはタイミングにバラつきがあり、時には対象が全くいない状況も発生する。 その場合産婦看護のデモスト、新生児計測デモストなどができる準備をして臨み実習時間を有効に活用し実践的な看護が身につくよう学生は準備し、教員・指導者は関わる。</p>						
授業内容（講義ことの内容）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 妊娠期にある対象の看護</li> <li>2. 分娩期にある対象の看護</li> <li>3. 産褥期にある対象の看護</li> <li>4. 新生児に対する看護</li> <li>5. 母子の愛着形成を促進する看護</li> <li>6. 家族関係を支援する看護</li> </ol> <p>※総合周産期母子医療センター見学実習1日、学内実習3日、臨地実習8日</p>					担当教員	
						専任教員	
						教員の連携と協力体制	
評価	<p>事前学習、実習記録の内容および提出期日を守る、など記録に関する全て 実習中の学ぶ姿勢、接遇など実習中の行動 上記内容および評価表各項目による実習指導者評価と教員評価による総合評価で評価する</p>						
テキスト	<p>医学書院 系統看護学講座 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 母性看護学各論 メヂカフレンド 母性看護技術</p>						
参考図書							
オフィスアワー	<p>(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など) 実習場で必要に応じて対応できます</p>						
備考	学内実習中に沐浴技術の確認を担当教員から受ける必要があります						

授業科目	精神看護学概論	単位	1	時間	15	履修時期	H31年度 2年次 1学期
設定理由	近年、さまざまな精神健康上の問題をかかえ、ケアを必要とする人々が増えそのニーズも多様化している。そのため、精神看護の考え方や方法が必要とされる時代となってきた。そのため、現代社会の現状から精神看護に求められていることについて学ぶ。						
学習目標	現代社会の現状から精神看護に求められていることについて理解する。						
授業の概要	1. 精神障がいとは何かを学ぶ。 2. 精神看護の基本的な考え方について学ぶ。 3. 精神障がい者に携さわるということを理解する。						
授業内容 (講義ごとの内容)	1. 心のケアと現代社会 2. 精神看護の基礎 3. 精神障がい患者とのコミュニケーション 4. 社会の中の精神病1 / 精神障がいと文化 精神障害と社会生活 5. 社会の中の精神病2 / 精神障がいと法制度 6. 社会の中の精神病3 / 精神医療と福祉の現状・病院から地域医療へ 7. 精神看護とその課題 8. 筆記試験						担当者(時間)
							専任教員(15)
							教員の連携と協力体制
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎(医学書院) 精神看護学② 精神看護の展開(医学書院)						
参考図書	統看護学講座 別巻 精神保健福祉(医学書院)						
オフィスア	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など) 随時対応可能であれば、質問・相談を受け付ける。 実習等で不在の場合は、教務室の担当教員の卓上にメッセージを置いておくと、返答の準備が出来次第、速やかに対応する。						
備考	スライド資料は、基本的に配布しません。授業内容は各自ノートにまとめてください。						

授業科目	精神の発達と健康	単位	1	時間	15	履修時期	H31年度 2年次 2学期
設定理由	精神はどの発達段階の人間も持ち合わせているものである。そのため、ここでは人間の精神の健康の保持増進を図るための精神看護の役割について学ぶ。						
学習目標	精神の健康の保持増進を図るために、精神の発達や働き、精神看護の目的、看護の対象について理解する。						
授業の概要							
授業内容（講義ごとの内容）	1. 精神保健の考え方 1) 精神の健康とは 2) 精神障害のとらえ方 3) ストレスと健康の危機 4) 心的外傷が精神の健康に及ぼす影響 5) 回復(リカバリー)を支える力  2. 人間の心のはたらきとパーソナリティ 1) 人間の心の諸活動 2) 心のしくみと人格の発達  3. 関係の中の個人 1) 全体としての家族 2) 人間と集団  4. 社会の中の精神障害 1) 精神障害と治療の歴史 2) 日本における精神医学・精神医療の流れ	担当者(時間)					
		非常勤講師(15)					
		教員の連携と協力体制					
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[1]精神看護の基礎 (医学書院)						
参考図書							
オフィスア	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など)						
備考							

授業科目	地域精神保健	単位	1	時間	15	履修時期	H31年度 2年次 1学期
設定理由	精神に障害をもつ患者が退院した後も安定した地域生活を継続するために必要なことは何か、また、入院することなく地域で精神の病を抱えながら生きている人々を援助するために必要なことは何か、看護師として必要となる知識を学ぶ。						
学習目標	精神に障害をもつ患者が退院した後も安定した地域生活を継続するために必要なことは何か、また、入院することなく地域で精神の病を抱えながら生きている人々を援助するために必要なことは何かを理解する。						
授業の概要							
授業内容（講義ごとの内容）	1. 地域における精神保健と精神看護 1) 精神障害をもちながら地域で暮らす人を支える 2) 地域で生活するための原則 3) 生活を支えるための社会資源・サービス 4) 地域での看護の実際 5) 学校における精神保健と精神看護 6) 職場における精神保健と精神看護 7) 災害と精神看護  2. リエゾン精神看護 1) 身体疾患を持つ患者の精神保健 2) リエゾン精神看護とその活動 3) リエゾナーズの活動の実際 4) 看護師の精神的健康への支援  3. 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス 1) 看護師の不安と防衛 2) 感情労働としての看護 3) 看護師の感情ワーク 4) 看護における共感の光と影 5) 感情労働の代償と社会 6) レジリエンスを高める						担当者(時間)
							非常勤講師(15)
							教員の連携と協力体制
評価	筆記試験、授業課題レポート						
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2]精神看護の展開 (医学書院)						
参考図書							
オフィスアワー	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など)						
備考							

授業科目	精神に障害のある人の看護実践方法論	単位	1	時間	30	履修時期	H31年度 2年次 2学期
設定理由	対象に応じた精神看護を実践するために必要な技術を学び、精神に障害のある対象の看護について学ぶ。						
学習目標	対象に応じた精神看護を実践するために必要な技術と、精神に障害のある対象の看護について理解する。						
授業の概要							
授業内容（講義ことの内容）	1. ケアの間関係 1) ケアの前提 2) ケアの原則 3) ケアの方法 4) 関係をアセスメントする 5) 患者-看護師関係における感情体験 6) 対処のむずかしい場面 7) 医療の場のダイナミクス 2. 回復を助ける 1) 回復の意味 2) 入院治療の目的と意味 3) 治療的環境を作る 3. 安全を守る 1) リスクマネジメントの考え方と方法 2) 緊急事態に対処する 3) 院内を中心とした災害時のケア 4. 身体をケアする 1) 精神科における身体のケア 2) 身体にあらわれる心の痛み 3) 精神科の治療と身体のケア 4) 日常から気をつけておきたい身体合併症 5) 精神科における身体ケアの実際 6) 睡眠の援助 7) 身体の問題へのグループアプローチ 5. サバイバーとしての患者とそのケア 1) 受け入れがたい行動を示す患者たち 2) 心的外傷への着目 3) 回復への道程 6. リエゾン精神看護 1) 身体疾患を持つ患者の精神保健 2) リエゾン精神看護とその活動 3) リエゾナーズの活動の実際 4) 看護師の精神的健康への支援						担当者(時間)
							非常勤講師(21)  看護師(9)
		教員の連携と協力体制					
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2]精神看護の展開 (医学書院)						
参考図書	系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 (医学書院)						
オフィス	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など) 学年担当教員を介して調整する						
備考							

授業科目	精神看護学実習	単位	2	時間	90	履修時期	H31年度 3年次 1学期
設定理由	人間の精神の健康を成長・発達・社会適応の面からとらえ、精神の健康の保持・増進、精神障害の予防及び精神の障害がある個人及び家族の理解を深め、看護の役割を学ぶとともに、自己洞察する能力を養う。精神看護学実習で培われる学びは、他領域の看護援助の礎となる。そのために確実な精神看護の知識・技術・人間を見る力を習得することが望まれる。						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神健康上に問題のある人やその家族を理解し、信頼関係を結ぶことの重要性を学ぶ。</li> <li>2. 精神健康上に問題のある人の身体的・精神的・社会的側面を知り、総合的に理解する。</li> <li>3. 精神健康上に問題のある人への日常生活行動の自立の程度に応じた看護の方法を学ぶ。</li> <li>4. 精神健康上に問題のある人の可能性に目を向け、社会に適応するための援助方法を学ぶ。</li> <li>5. 精神健康上に問題のある人を取り巻くキーパーソンの重要性を理解する。</li> <li>6. 保健・医療・福祉のコメディカルの人々の連携と役割を理解する。</li> <li>7. 社会資源の種類及び活動状況を理解する。</li> <li>8. 看護者自身がケアの中心的道具となることを体験し、看護者－患者関係の発展過程を理解し、治療的関わりの技法</li> <li>9. 看護援助やそのふりかえりを通して、自分の感情や行動特性に気づき、自己のあり方や自己洞察を深める能力を養</li> </ol>						
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神の健康障害をもつ人の看護上の課題を、事例(ペーパーペイシエント)を通して抽出することができる。</li> <li>2. 看護実践に活用できる精神看護の技法について学ぶ。</li> </ol>						
授業内容(講義ごとの内容)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神に障がいを持ちながら地域で生活している人の理解</li> <li>2. 精神に障がいを持ち入院生活を送っている対象の理解</li> <li>3. プロセスレコードによる感情・行動分析</li> </ol>					担当者(時間)	
						専任教員	
						教員の連携と協力体制	
評価	受け持ち患者に対する看護実践、実習の取り組み姿勢						
テキスト							
参考図書							
オフィスアワー	(担当講師との連絡相談・確認方法・時間など) 実習中随時。 実習後の反省会など。						
備考							